

八王子学園都市大学いちょう塾への提供講座

第九回古代史セミナー ～古田武彦先生を囲んで～

日本古代史 新考 自由自在(その5)

- ◆開催日:2012年11月10日(土)～11日(日) 1泊2日
- ◆場 所:八王子セミナーハウス(東京都八王子市下柚木1987-1)
- ◆主 催:公益財団法人 大学セミナーハウス



(今年のセミナー風景)

日本古代史 新考 自由自在(その5)

一

わたしは今日も生きている。なぜか。おそらく運命の神がわたしに対して、「期する」ところが残っているからであろう。

昨年、わたしは書いた。「この本を書き終えたら、いつ死んでも、悔いるところはない。」と。畢生の書としての『卑弥呼』(ミネルヴァ書房刊)の原稿を書き終えたときである。五月末、三十一日だった。

爾来、一年間をすぎ、上の書も公刊を見た。しかも、わたしはなお生きている。神は、あるいは仏は何を求めたまうのであろうか。

二

この一年間の収穫は多彩だった。

先ず、尾崎康著『正史宋元版の研究』(汲古書院刊)だ。わたしが尊重した、三国志の「紹熙本」(宮内庁書陵部蔵)に対し、忌憚のない批判が展開されていた。その一つ、ひとつが「逆転」してゆく、新たな再批判の醍醐味。久しぶりに堪能した。

三

次は「邪馬壹国」。誰がこの国名を書いたのか。——卑弥呼その人だ。彼女の国書(上表文)の中の一語だった。「豆(とう)」は、神を祭る器具。「士」は「仕」(仕事とする)「一」は器具の上の台板。それらを“合わせた”のが、この「壹」の字なのである。

陳寿はそれを知っていた。だから「俎豆の象、存す。」と。序文(三国志の序文。いわゆる「東夷伝序文」)に書いた。

「邪馬壹国」の一語は、陳寿にとって「三国志全体の中核となる」キーワードだったのである(二〇一二年七月二十日の発見)。今回、詳述する。

四

次は和田家文書。大きな進展があった。「寛政原本」の発見は、この八王子の大学セミナーの最中での「事件」だったが、この文書が日本の歴史全体にとって占める、枢要の位置が段々と明らかになってきた。第一、「日本」という国号は、日本列島の「中」で“思いつかれた”ものではない。当然のことだ。列島内に住む住民が「自分のところから、太陽が登る」などと思うはずはない。「高天原」(タカアマバル)寧波(ニンポー)の地、いわゆる会稽山の下、杭州湾の人々(海士族)の「目」で、眼前の対馬海流(黒潮分流)の向う(東側)を指して「日ノ本」と呼んだのである。和田家文書を「日の本文書」と呼ぶ(久慈カ氏)のも、偶然ではない。

明治維新以降のイデオロギー、「天皇家一元史観」の霧が晴れはじめたのである。

明日、わたしのいのちが終っても、「青天白日」の未来は、近い。

— 二〇一二年七月二十一日記 —

(古田 武彦)

【古田武彦先生 略歴】

- 1926年 福島県に生まれ、広島県で育つ
1945年 旧制広島高校を経て東北大学に入学
村岡典嗣に師事
1948年 東北大学法文学部日本思想史科卒業
長野県松本深志高等学校教諭
1984年 昭和薬科大学教授
1996年 同上定年退職後、京都府に在住



古田武彦先生
(歴史学者・元昭和薬科大学教授)

【古田武彦先生 著書・DVD】

- | | | |
|-----------|------------------------------|------------------------|
| 1971年 | 『「邪馬台国」はなかった』 | 朝日新聞社 |
| 1973年 | 『失われた九州王朝』 | 朝日新聞社 |
| 1975年 | 『盗まれた神話』 | 朝日新聞社 |
| 1979年 | 『ここに古代王朝ありき』 | 朝日新聞社 |
| 1984年～85年 | 『古代は輝いていた』 全3巻 | 朝日新聞社 |
| 1985年 | 『古代史を疑う』 | 駸々堂 |
| 1987年 | 『よみがえる卑弥呼』 | 駸々堂 |
| 1988年 | 『古代は沈黙せず』 | 駸々堂 |
| 1989年 | 『吉野ヶ里の秘密』 | 光文社 |
| 1990年 | 『真実の東北王朝』 | 駸々堂 |
| | 『「君が代」は九州王朝の讃歌』 | 新泉社 |
| 1991年 | 『日本古代新史』 | 新泉社 |
| | 『九州王朝の歴史学』 | 駸々堂 |
| 1994年 | 『人麿の運命』 | 原書房 |
| 1996年 | 『海の古代史』 | 原書房 |
| 1998年 | 『古代史の未来』 | 明石書店 |
| 2001年 | 『古代史の十字路－万葉批判』 | 東洋書林 |
| | 『壬申大乱』 | 東洋書林 |
| 2002年 | 『古田武彦著作集親鸞・思想史研究編』 全3巻 | 明石書店 |
| 2006年～09年 | 『なかった 真実の歴史学』(創刊号～第六号) | ミネルヴァ書房 |
| 2010年 | 『「邪馬台国」はなかった－解説された倭人伝の謎』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『失われた九州王朝－天皇家以前の古代史』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『盗まれた神話－記・紀の秘密』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『邪馬壹国の論理－古代に真実を求めて』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『ここに古代王朝ありき－邪馬一国の考古学』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『701 人麻呂の歌に隠された九州王朝』《DVD》 | (株)アンジュー・ボータールホールディングス |
| 2011年 | 『古代史を疑う』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『よみがえる卑弥呼－日本国はいつ始まったか』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| 2012年 | 『古代は沈黙せず』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『真実の東北王朝』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『人麿の運命』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『古代史の十字路－万葉批判』(復刊) | ミネルヴァ書房 |
| | 『壬申大乱』(復刊本、2012年8月発売予定) | ミネルヴァ書房 |

他多数

【実行委員】(コーディネーター)

- 荻上 紘一 大妻女子大学学長、公益財団法人大学セミナーハウス館長、東京都立大学元総長
(数学者) ☆古田先生の著作をほとんど読破し、「弟子」と自認している。

【スケジュール】

第1日：11月10日（土）

11:30 ～ 受付
12:00 ～ 13:00 昼食
13:15 ～ 13:30 開会
13:30 ～ 15:30 講演と質疑応答
15:30 ～ 16:00 記念撮影・コーヒープレイク
16:00 ～ 17:45 講演と質疑応答
18:00 ～ 19:00 夕食
19:30 ～ 20:30 懇親会「古田武彦先生を囲んで」

第2日：11月11日（日）

8:00 ～ 9:00 朝食・チェックアウト
9:30 ～ 12:00 参加者による研究発表
12:00 ～ 13:00 昼食
13:15 ～ 15:15 講演と質疑応答
15:15 ～ 15:45 休憩
15:45 ～ 17:00 講演と質疑応答
17:00 閉会

【募集要項】

- 募集人員：60名
参加費：21,000円(税・宿泊・食事代・資料代を含む)、学生10,500円
申込方法：申込書に必要事項をご記入の上、下記宛に郵送(FAX)ください。
ホームページ掲載の申込みフォームからも、お申込みいただけます。
折り返し、参加決定通知及び当日のご案内などをお送り致します。
1週間以内に連絡がない場合は、お手数ですが、お電話でご確認ください。
申込締切：2012年11月2日(金)(定員になり次第、締め切ります。)
その他：当ハウスは一般の宿泊施設としてもご利用頂いております。
セミナーの前日または終了後の宿泊を希望される方は前もってご連絡ください。

【交通案内】

①羽田→京王線北野駅下車

◆羽田→浜松町(東京モレール25分470円)→新宿(JR山手線25分190円)→北野(京王線準特急40分330円)

◆羽田→品川(京急空港線25分400円)

→新宿(JR山手線外回り20分190円)→北野(京王線準特急40分330円)

※北野駅からバス「野猿峠」下車(10分170円)、徒歩5分

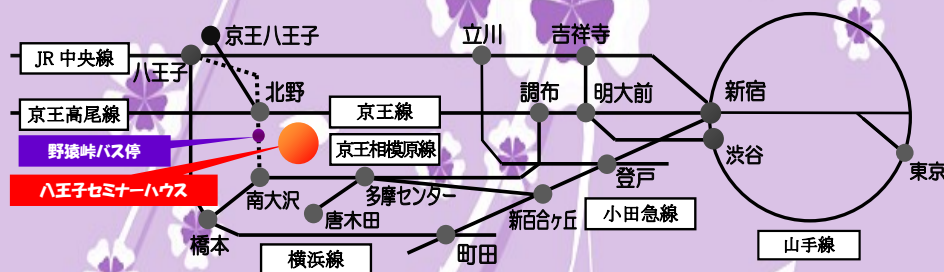
②東京駅→JR八王子駅下車(JR中央線特別快速50分780円)

③新横浜→JR八王子駅下車(JR横浜線50分620円)

※八王子駅南口からバス「野猿峠」下車(20分200円)、徒歩5分

④車ご利用の場合

中央高速道八王子I.C.より、八王子バイパスまたは、国道16号線で京王線北野駅方面へ8km、打越信号を經由し野猿街道へ、野猿峠信号を右折、約300m。



【お申込み・お問合せ】公益財団法人 大学セミナーハウス セミナー・留学生グループ



〒192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1
TEL：042-676-8532/FAX：042-676-1220
E-mail：seminar-g@seminarhouse.or.jp
URL：http://www.seminarhouse.or.jp

